

進歩と手を繋いで

城北中学校 三年 柏木 優希

近年、私たちの生活にはAIと呼ばれる人工知能が強く関わっています。レストランで注文したものを運んでくれるものや、自動的に部屋を綺麗にしてくれるものなど、様々な種類がありますが、それらはどれも年々凄まじい進歩を遂げています。

そのように、様々な種類のあるAIの中から私は「画像生成AI」に注目しました。画像生成AIとは、自分が欲しいと思った画像の情報をテキストなどを用いて与えることで、自動的にAIが画像を生成してくれるサービスのことを指します。

私が画像生成AIに興味を持ったきっかけは、あるイラストレーターの投稿です。「AIに自分のイラストと似たイラストを作られてしまっ困っている。」というような文と共に、二つの類似したイラストが載せられていました。その投稿に私は目を疑い、一心不乱に調べているとそのイラストレーターのイラストがAIを用いて真似されることによって、類似したイラストが世に多く出回り、オリジナリティを損なうことが分かりました。そして、「そのイラストレーターが描いたイラスト」自体の価値が下がってしまう実態を知り、驚きました。なぜなら、私は画像生成AIについて、絵を描くことが苦手であったり、道具や時間が無かったりしても、要求をAIに伝えるだけで誰でも簡単に自分が欲しいと思った画像を手に入れることができる、まるで魔法のようなものというイメージを持っていたからです。

私が今まで持っていた画像生成AIについてのイメージは、良い部分だけの、たったの一部に過ぎないことに気が付き、衝撃を受けました。そんな自分自身を恥ずかしく思い、画像生成AIについてもっとよく調べてみると、いくつかの課題があることを知りました。その中で強く印象に残ったものは、著作権及び知的財産権への侵害の可能性についてです。それは、画像生成AIに学ばせている画像やアイデアの権利が侵害されてしまっているかもしれないというものでした。もし、私が一生懸命描いたイラストを勝手に学習されたり、生成する参考画像として提示されたりしたら、とても嫌な気持ちになると思います。それに加え、まだ日本ではAIによる権利の侵害についての情報や意識が広まっていないといえます。そのため、SNS上では、著名なイラストレーターの画風ととてもよく似ていると捉えられるイラストも見られます。私は、AIによって似た画像が増えていくことで画風やアイデアの画一化が進み、イラストで表すからその面白さが薄れていってしまうのではないかと思ひ、悲しさで胸がいっぱいになりました。しかし、それは画像生成AIが悪い訳ではありません。なぜなら、そのAIを操作しているのは私たち、人間だからです。私たち一人ひとりが、画像の先にはそれを作り出している「人」がいるということを前提として、著作権や知的財産権が侵害されていないかをしっかりと考えるべきだと思います。また、物事を少ない知識だけに留めていると、余計な誤解を生んでしまったり、一方的な意

見に偏ってしまったりするので、メリットだけでなくデメリットも把握し、正確な知識を持って判断していくことが大切だと思います。

画像生成AI含むAI技術の進歩は、便利でより良い生活を送るために活用すべきものだと思います。新たなものや技術が多く存在するこの時代、一人ひとりがただ便利に呑まれるのではなく、自身の行動や意識を気をつけることで、AIの技術と共により良い生活が送れるのではないのでしょうか。これからも進歩し続けるAIの技術と手を繋いで、私もより良い生活を作る一員となっていきたいです。